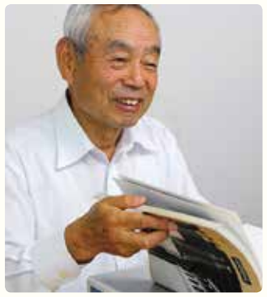
シリーズ

千代田の学び人にあいたい vol.3

久保金司さん［NPO法人神田学会理事／KANDAルネッサンス前発行人］



―久保さんは1987年創刊し、2016年6月に103号を迎えたKANDAルネッサンスの創刊から100号までの発行人。創刊号から最新号までを見せながら、お話をしてくださいました。

3代に亘り建設業を生業とする神田生まれの神田育ちです。神田駅を利用し通勤する会社員や地元の人に地域に愛着を持って欲しいと、1977年に創刊したタウン誌がKANDAルネッサンスの前身です。1980年代に地上げによる再開発が急速に進み、人口が急激に減り、町並みや近隣関係の変化を危惧し、神田再生の意味を込め、KANDAルネッサンスを創刊しました。

街情報や歴史を紹介するだけでなく、未来を考える場として、並行して座談会や勉強会を開催しました。これが、神田学会に繋がり、NPO法成立を機に一企業、一個人ではなく、地域のものにしていきたいと思い、設立しました。KANDAルネッサンス編集・発行で縁のできた人や神田地域の有志が参画、協力してくれました。神田学会では、将来の街を見据えて公開講座や講演会をやってきました。

100号を機に発行人を引退し、神田学会の副理事長も交代しましたが、神田の未来に関わっていく姿勢や熱意に変わりありません。江戸時代の街や暮らしがきっと参考になるはずです。こうやって継続してこられたのは、神田への愛と情熱があり、縁でつながった多くの人がいたから。変化しつづける神田の将来をこれからも考えていきたいです。

Mana-being ››› 写真集『神田』や『東京まんまんなか』も制作された久保さん。街やひとの記録ではなく、“神田”という街を形成してきたものが粋に表現されていた。残したいものをこんなにもメッセージとして伝えられることに感動した。［黒住］

L.L.News

ジュニアカレッジ

「カーテンに描こう 未来のまち」in 日本大学理工学部まちづくり工学科

日時｜2016年8月9日［火］13-16時　会場｜日本大学理工学部お茶の水校舎10階 まちづくり工学科製図室
講師｜中田弾［一般社団法人D&A Networks 代表理事］　牟田聡子［日本大学理工学部まちづくり工学科 助手］

講師2名と大学生ボランティアの指導の下、4枚の大きなカーテンに“未来のまち”を描きました。参加者は、小学生9名とその保護者6名の6組15名。はじめに白い紙にデザインスケッチをしました。「何を描こうかな」「まちにどんなものがあったらいいかな」などの声があがり、大学生と楽しく話をしながら、描いていきました。次にデザイン画を元に、カーテンに描く作業です。布クレヨンを使って、1枚を2人が担当しました。大きなカーテンにまちを描くのは大変そうでしたが、全員が“未来のまち”を描くことができました。4枚のカーテンを並べ、お披露目をし、「何を描いたのか、工夫した点」などをみんなの前で1人ずつ発表しました。

講師の中田先生は、「自分たちのデザインしたものが、まちの中で多くの人たちに影響を与えることを知るきっかけになれば嬉しいです。」と熱く語ってくれました。

*完成したカーテンは日本大学駿河台校舎5号館に2020年まで掛けられています。ぜひ、足を運んでご覧ください。

Mana-being ››› はじめは緊張した表情の子どもたちが大学生との会話や他の友達に刺激され、自分の描きたいものを表現している姿に感動。カーテンに布クレヨンで描く時の迷いのないタッチは「失敗したらどうしよう」という姿勢を感じさせず、のびのびとしていました。「これがあったらいいかも」とアイデアが生まれてくる様は、無限の可能性を感じました。［山本］

編集後記 ›››DanDan副編集長 安田
お茶をするだけでなく、時間・空間・知識を共有できるカフェを特集しました。千代田区は人が集まる街だからこそ、色々なアイディアが産まれ、実現されています。ご近所にも「何かが共有できる」カフェがないか探してみてください。

DanDan第13号
平成28年9月28日発行
発行｜千代田区立九段生涯学習館
©株式会社小学館集英社プロダクション
DanDan編集室
〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-10
TEL(03)-3234-2841 FAX(03)-3262-7460

＼九段から発信する生涯学習コミュニティペーパー／

volume 13
TAKE FREE

DanDan

ありがとう、ゆっくり、まあるく かかわっていく

特集

時間・空間・知識を共有できるカフェ

今では街の中に多く存在するカフェ。どの様に利用していますか？待ち合わせ、コーヒーや紅茶の香りを楽しむ、勉強、おしゃべり、ちょっと休憩などなど。千代田区内で時間や空間、知識を共有できるカフェを紹介します。

手にしたことのない分野の本を読むのも良し、仲間と場所を借り切るのも良し、セミナーに参加するも良し。今の自分に+αできる利用方法を見つけてください。

▲文庫Caféみねるばの森 本に囲まれた空間

＼Minerva／

Interview

東京・千代田区の九段下交差点から5分ほど歩くと、本とフクロウのイラストが見えてきます。《文庫Caféみねるばの森》です。

2010年にテレビでお馴染みの寺島実郎さんが「知的活動の拠点」として設立した寺島文庫ビルの1階にある「知的研鑽」の場です。今回は、そんな素敵なカフェと寺島文庫についてスタッフの日高さんに伺いました。

▲文庫Caféみねるばの森 外観と目印のフクロウ

知的活動の拠点

もくじ

特集｜時間・空間・知識を共有できるカフェ＆お散歩かるた「いまどきカフェ」
シリーズ｜千代田の学び人にあいたい 久保金司さん［NPO法人神田学会理事／KANDAルネッサンス前発行人］
L.L.News｜ジュニアカレッジ「カーテンに描こう 未来のまち」in 日本大学理工学部まちづくり工学科

千代田区立
九段生涯学習館
こころを育み 明日へつなぐ

文庫Cafeみねるばの森

千代田区九段北1-9-17 寺島文庫ビル1F
［Tel］03-5215-2950 ［営業時間］月～金9–18時 ［定休日］土日祝

皆の集まりやすい所に交流の場を

Interview

▲多彩なジャンルの書籍

▲ダイエットサポート定食「大豆と鶏肉のトマト煮」

▲スタッフの日高さん

特集

時間・空間・知識を共有できるカフェ

寺島文庫とカフェを九段下に開いたのは？

寺島には、自宅の書庫を皆が集まりやすい都心に持ってきて、そこを仲間や後進たちの研修、研鑽の場にしたいという夢がありました。そして、この九段下にその場所を見つけました。

1階にはプラットフォームとしてカフェを設けました。カフェでは、書籍が自由に読めるとともに、人的交流の場を提供しています。店名は、知恵の象徴という意味のミネルヴァとその森でありたいという思いから、《文庫Cafeみねるばの森》とつけました。

「文庫Cafeみねるばの森」はどんなお店ですか？

カフェ内の書籍は全て自由に手に取ることができます。ジャンルは、世界の地理・歴史や社会科学に関わる書物、ゴルゴ13のシリーズ、アニメ関係、週刊誌など多彩です。アトムなどのキャラクターも置き、昭和の雰囲気です。書籍や展示物は随時、寺島が入れ替えています。

食事のメニューは、健康をテーマにしています。ランチでは、低カロリーの「ダイエットサポート定食」を週替りで提供しています。その他、ボリュームたっぷりなのにヘルシーなパスタや、唐揚定食などもあります。また、青汁・紫野菜ジュースなどの健康ドリンクもあります。

ランチタイムには近隣のサラリーマンの方、その他の時間は、ゆっくり本を読みたい方や商談の方たちが来られます。夜は貸し切りで、セミナーや研修会にご利用いただいています。

寺島文庫とは？ そして寺島さんの若い人へのメッセージを…

寺島文庫では、書架と会議用の部屋に寺島が集めた社会科学や思想など多彩な文献5万冊弱を収蔵しています。グループでの見学ツアーも、事前に予約いただければ可能です。

寺島は、「今はインターネットが普及し、情報は手軽に得られる。しかし、書いてあるものから知識を得て、実際に現場に行って、自分の目で見て想像を巡らすフィールドワークが大事である。物事を多面的に立体的に見なければいけない。そして、学び方を自分で見つけてほしい」と願っています。

＼ちょっといい話／

寺島さんは高校1年生の時、鹿島出版会から出ているクーデンホーフ=カレルギー著『パン・ヨーロッパ』などの本を読みたいと思いました。ですが、高価で手が出ないので、翻訳者でもある鹿島守之助氏に「お古でもいいからほしい」と手紙を出したところ、何冊も送って下さったそうです。46年の時を経て、鹿島氏の秘書さんがその手紙とお礼の手紙を保管してあったことが分かり、それらは今、寺島文庫の2階に展示されています。

Mana-being ▸▸▸ カフェは明るく、広く、ゆっくり本を読むことができます。ランチも大満足です。寺島文庫は随所に世界地図が貼ってあり、寺島実郎さんの、若い人たちに世界を見据えて成長して欲しいという思いが伝わってくるようでした。［高島］

Café Guide in CHIYODA

サロンド 冨山房Folio

明治19年から続く老舗出版社・株式会社冨山房インターナショナルのカフェです。店内に置いてある本は自由に読めます。

昼間は落ち着いた喫茶店ですが、夜はイベントやサイエンスカフェなどを開催しています。貸切可能ですので、プロジェクタなどの機器も借り、広さを活かしてスポーツ観戦やライブなどを楽しむこともできます。

千代田区神田神保町1–3 冨山房ビルB1
［Tel］03-3291-5153
［営業時間］月～金10–17時
［定休日］土日祝

ライブラリーショップ&カフェ日比谷

千代田区立日比谷図書文化館1階にあるカフェです。図書フロアの図書を持ち込んで、コーヒーを飲みながらゆっくり本を読むことができます。日比谷公園の都会の緑に囲まれた、リフレッシュできる空間です。

併設するショップでは文房具だけでなく、日比谷図書文化館でのイベント関連の本なども購入できます。

千代田区日比谷公園1–4 日比谷図書文化館1F
［Tel］03-3502-3340（代表）
［営業時間］月～金10–19時、土日祝10–17時
［定休日］第3月曜日、年末年始

ブックカフェ 二十世紀

美術書から落語・ライトノベルまで、多種多様な古本に囲まれたカフェです。

読んでよい本は、分野毎に整理されていて選びやすいです。辛口のジンジャーエールをお供に、今まで自分では選んだことの無いジャンルの本も楽しめます。

トークセッションや研究会など、イベントを開催しています。

千代田区神田神保町2–5–4 開拓社ビル2F
［Tel］03-5213-4853
［営業時間］月～土11–19時、日祝11–18時
［定休日］無し

きっさこ

神保町の裏路地にある隠れ家的なカフェです。JAZZを聴きながら自家焙煎のコーヒーを飲むのもよし、本を片手に紅茶を飲むのもよし、自分だけの時間を作ることができます。

また、2階には2時間貸切できる和室があり、サークルの勉強会などにも利用できます。約5畳の広さがあり、3名以上で一人1ドリンク制です。

千代田区神田神保町2–24–3
［Tel］03-6272-9354
［営業時間］月～金11–20時、土日祝12–18時
［定休日］無し

DanDan編集室による

お散歩かるた vol.8 いまどきカフェ

せ
背伸びして
ブラック頼む
純喫茶

て
ティールーム
本を手に取り
至福の時

に
賑やかに
絵本手に取り
パフェ頼む

ね
猫カフェで
癒され思う
今の日本

の
ノスタルジー
感じる駅舎に
和カフェあり

む
夢中です
メイドが作る
オムライス

め
メニューには
はんだづけのみ
カフェなのに

れ
レトロカフェ
本が心を
癒す街

chief editor ▸▸▸ Chise Hirano deputy chief editor ▸▸▸ Shingo Yasuda design ▸▸▸ kotaro kawahara
editor ▸▸▸ Yuriko Takashima, Hiroshi Takeuchi, Yoshiko Hoshino, Yoko Yokoyama, Yuichiro Kurozumi, Rumi Yamamoto